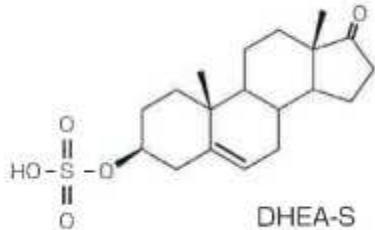


# DHEA-S

デヒドロエピアンドロステロン-サルフェイトキット

デヒドロエピアンドロステロン-サルフェイト (DHEA-S: dehydroepiandrosterone sulfate) は副腎アンドロゲンの代表的なもので、アンドロゲンとしての生理活性は弱いですが、分泌過剰となると種々の男性化徴候を引き起こします。



クッシング症候群や多嚢胞性症候群 (PCOS) でも上昇するとされています。また、先天性副腎過形成においては、多毛症や男性化症状がある 21-水酸化酵素不全型、11 $\beta$ -水酸化酵素不全型などでは高値となり、性腺機能不全となる 17 $\alpha$ -水酸化酵素不全型では低値となるなど症型の鑑別に使われます。

半減期は6時間と長く、日内変動はありません。思春期に血中濃度が上昇した後は加齢に従い減少するため、老化との関係が指摘されアンチエイジングの指標としても考えられています。また、DHEA-S が動脈硬化、糖尿病、肥満などに関係するとも言われており、DHEA 補充療法が肥満抑制やインスリン感受性改善などを誘導し、メタボリックシンドロームを抑制するという報告もあります<sup>1)</sup>。

1) 葦田健二 柳瀬敏彦、DHEA についての基本知識、Modern Physician, 27, 1049-1052 (2007-8)

仕様

試薬構成

免疫反応試薬	Eテスト「TOSOH」II (DHEA-S)	(100テスト/箱)
標準品	Eテスト「TOSOH」II (DHEA-S) 標準品セット	(6濃度、各2本/箱)
検体希釈液	Eテスト「TOSOH」II (DHEA-S) 検体希釈液	(4mL x 4本/箱)

対象検体種 血清、ヘパリン血漿、EDTA血漿

測定時間 免疫反応時間 10分 (1ステップ競合法) 結果報告 約20分

測定範囲 2.0 ~ 1,000  $\mu\text{g/dL}$

健常人参考値	男性	20歳代	123 ~ 727	$\mu\text{g/dL}$
(社内データ)		30歳代	106 ~ 445	$\mu\text{g/dL}$
		40歳代	66 ~ 488	$\mu\text{g/dL}$
		50歳代	77 ~ 365	$\mu\text{g/dL}$
	女性	20歳代	65 ~ 514	$\mu\text{g/dL}$
		30歳代	71 ~ 208	$\mu\text{g/dL}$
		40歳代	34 ~ 303	$\mu\text{g/dL}$
		50歳代	41 ~ 222	$\mu\text{g/dL}$